

# 富山でみえる 2021年8月の星空

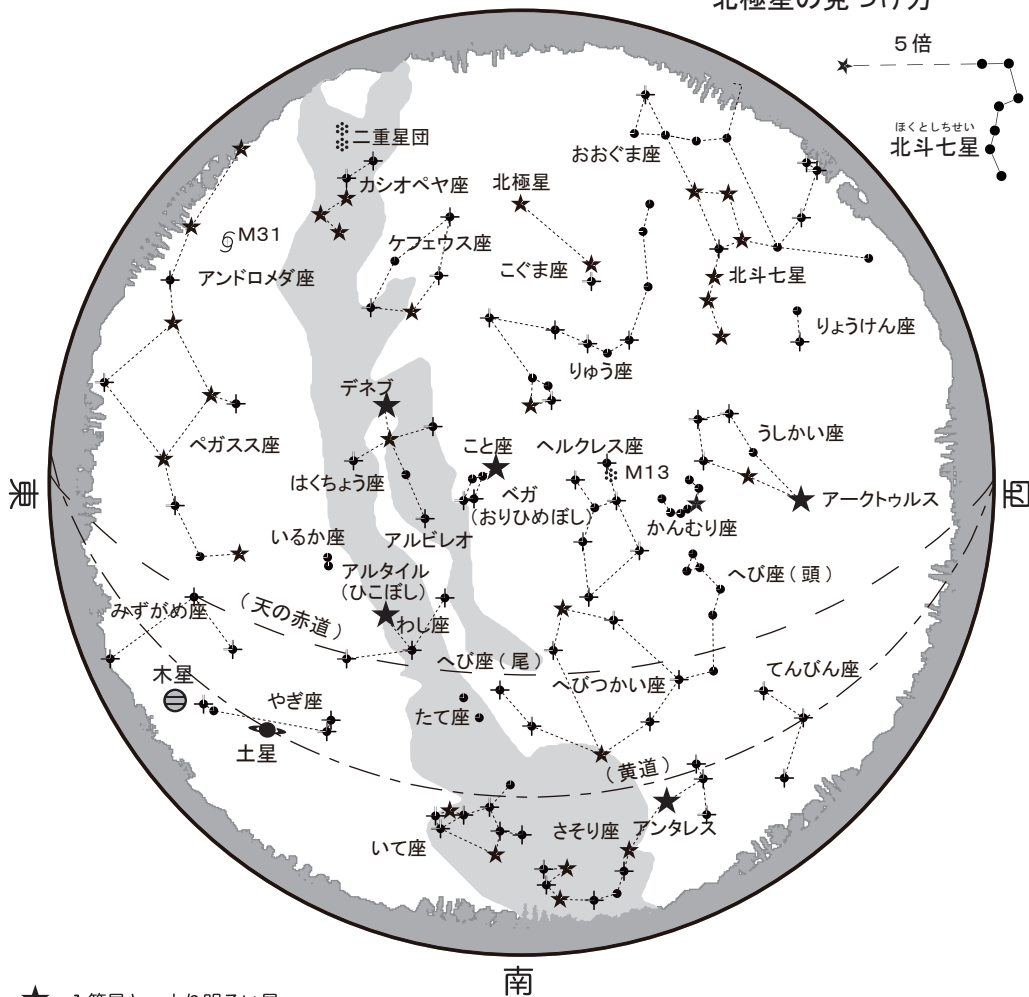
自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見てみよう。

北

ほっきょくせい  
北極星の見つけ方

5倍

ほくとしせい  
北斗七星



- ★ 1等星と、より明るい星
- ★ 2等星
- ✦ 3等星
- 4等星と、より暗い星
- ◎ 変光星
- ※ 星団
- ☁ 星雲
- ☾ 銀河

～この星空が見えるのは～

- 8月 5日 午後9時ころ
- 8月 20日 午後8時ころ
- 9月 5日 午後7時ころ

～月のようす～

- 8月 8日 新月 ●
- 8月 16日 上弦 ◐
- 8月 22日 満月 ○
- 8月 30日 下弦 ◑

## こと座

夏の星空で一番明るい恒星のベガが目印です。ベガは七夕のおりひめ星です。ベガの東側には望遠鏡で見ると二重星が2つ並んで見える「ダブル・ダブルスター」という星があります。また、この星座にはドーナツのような形をした星雲（リング状星雲）もあります。



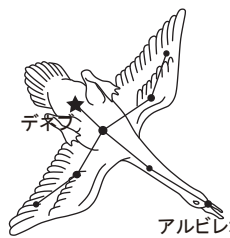
## わし座

七夕のひこ星であるアルタイルが目印です。アルタイルとは「飛ぶワシ」という意味で、2つの星がアルタイルを挟んで一直線に等間隔でならんでおり、この3つの星の姿を飛んでいるワシに見たてたそうです。



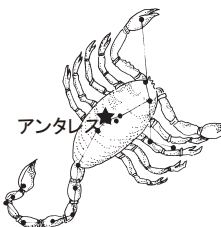
## はくちょう座

夏の大三角の一つである一等星デネブが目印です。この星をしっかりと見て、天の川の上できれいな十字の形をつくっています。くちばしの星はアルビレオといい、肉眼では一つの星に見えますが、望遠鏡で見るとオレンジ色と青色の2つの星に見えます。



## さそり座

赤い1等星アンタレスが目印です。釣り針のような形に星が並んでいるので、日本では「魚釣り星」や「鯛釣り星」と呼ばれました。なお街明かりなどのため下半分は見えないことがあります。アンタレスはとて大きな星で、太陽の約700倍もあります。

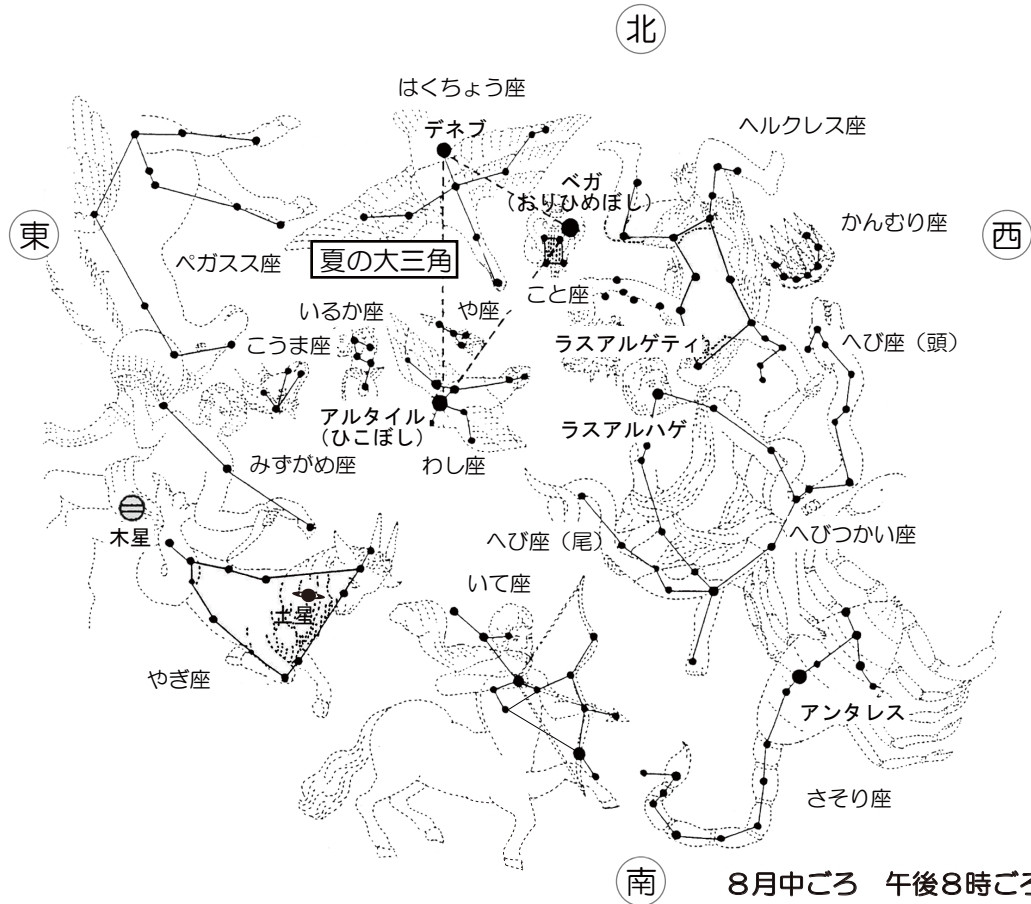


## いて座

いて座は南の空低く、天の川の一番明るいところにあります。そこは、天の川銀河の中心方向です。いて座で目につくのは「南斗六星」。そこから星をたどると、半人半馬のケイローンが弓を射る姿になります。



# 夏の星座の見つけかた

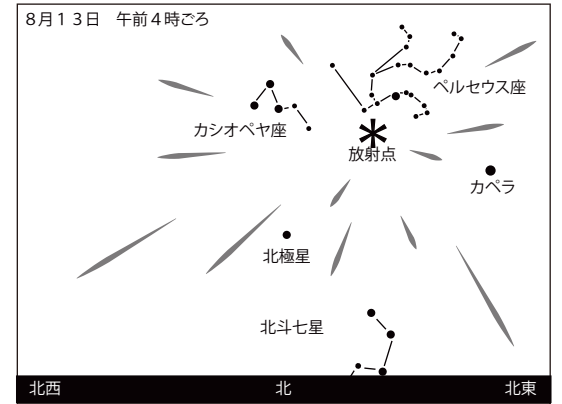


8月中ごろ 午後8時ごろ

- 1 空高くに、青白くてとても明るい、こと座のベガを見つけてます。それを手がかりとして、「夏の大三角」を見つけてます。
- 2 南の空に、釣り針の形をしたさそり座を見つけてます。
- 3 夏の大三角とさそり座の間に、へびつかい座を見つけてます。2等星ラスアルハゲがへびつかい座の頭の部分です。
- 4 さそり座の東に、いて座があります。いて座の中にあるひしゃくの形をした「南斗六星」から、いて座の星の並びを見つけてます。さらに東に逆三角形に星が並んだやぎ座を見つけてます。今年はやぎ座のあたりに土星と木星が見られます。

## 流星を見てくださいませんか

夏のお盆ごろ、毎年たくさんの流星が見られるペルセウス座流星群。今年8月13日夜明け前の1～4時ごろに最も多く流れると予想されています。12日は21時ごろに月が沈み、月明かりがないので流星を観察するチャンスです。右図の放射点(\*)あたりを中心に四方八方に空全体のどこかで現れます。どこに出現するかわからないので、なるべく空全体を見渡すようにしましょう。なお、この日に流星が見られなくても、前後数日は見ることができます。



## スター・ウィーク ～星空に親しむ週間～

毎年8月1～7日は「スター・ウィーク～星空に親しむ週間～」です。これは、多くの人に星を見ることに親んでもらおうと呼びかけられているキャンペーンです。8月上旬は梅雨が明けて天候も安定するころで、星空を眺めるにもとても適した時期です。毎年、この期間を中心に、全国各地で星空観察会などのイベントが開催されます。また、この時期は、山や海などの夜空の暗い場所で晴れていればうっすらとした光の帯が見えます。これは天の川で、その正体は、わたしたちがいる天の川銀河の星たちです。太陽のように自分で輝いている恒星の集まりで、その数は約2000億個あります。日本や中国では七夕伝説に登場しますね。天の川をはさんで、おりひめ星(こと座のベガ)、彦星(わし座のアルタイル)が輝いています。チャンスがあったら、ぜひ見てくださいね。

